

日本歴史言語学会 2026 年大会  
ご案内と研究発表の募集

2026 年大会の開催日時と開催方法についてご案内いたします。

開催日時：2026 年 12 月 5 日（土）および 6 日（日）  
開催会場：東京外国語大学（府中市朝日町 3-11-1）  
開催方法：対面開催（オンラインでの配信はない予定です）

12 月 5 日（土）には、シンポジウム「韓国語史研究の成果と課題」（仮）を行います。詳細は改めて学会 HP などでお知らせいたします。なお、シンポジウムの終了後、懇親会を行います。

12 月 6 日（日）に行われる**研究発表（口頭発表）**で発表を希望する会員は、大会規定（別添 PDF）をよくご確認の上、下記の要領で発表申し込みをしてください。なお、本大会では大会運営の都合上、ポスター発表は募集しませんので、ご了承ください。

申し込み締め切り：2026 年 8 月 31 日

申込先：presentation@jp-histling.com（発表申込専用アドレス）

添付すべきファイル：「研究発表申込書」（別添 Word ファイル）および

「発表要旨」（800～1000 字程度、書式任意、Word ファイル）

- ※ 発表要旨は、問題の所在や従来の研究を踏まえ、何をどのような方法で明らかにするのかについて可能な限り結論を含む形で、適宜具体例や参考文献にも言及しながら簡潔にまとめてください。
- ※ 会費未納の会員は、申し込むことができません。未納がある場合は、発表申し込みまでに過去の未納分を納入してください。

2026 年 5 月 18 日

日本歴史言語学会  
会長 堂山英次郎  
大会委員長 平子達也

### 【公開シンポジウム概要】

日本における近代以降の韓国語学（朝鮮語学）は、小倉進平、前間恭作、河野六郎などの先達の業績を基盤としつつ、それ以降も多くの研究者に受け継がれて現在に至っている。勿論、現在では、韓国語の歴史的な研究は韓国を中心としてさまざまな方面に発展を遂げ、多くの研究者の業績が知られているが、日本においても、韓国語の歴史的な研究は若い世代にも連綿と受け継がれ、韓国語史研究は日本の韓国語研究全体の中でも特色ある一分野となっている。

このシンポジウムでは、日本で活動する研究者を中心として、韓国語史研究において、これまでにどのような成果が挙げられてきたか、そしてどのような課題が残されているかについて、他の言語の歴史研究者にも参考になるように、さまざまな分野の最先端の研究を紹介していく。